

科目ナンバー	C3403	要件	教職必修 保育必修	授業形態	講義	対象学生	I A B I I C D
授業科目	教育課程総論						
実施期	前期	単位数	2単位	授業者 担当者	川村 富子		
【科目の概要】							
保育の計画の必要性や計画を作成するための基本事項を学ぶ。ねらい・内容・子どもの予想される活動・環境の構成と援助について学ぶとともに保育実践に繋がる保育課程・教育課程と指導計画の実践を学習する。							
							【関連DP】
ア	保育課程・教育課程の意義を学び、指導計画の重要性を理解している。						1-c
イ	子どもの発達に応じた保育者の役割や環境構成の在り方を考えることができる。						2-c
ウ	長期の計画と短期の計画の関係について考え、保育の実際や子どもの姿を捉えることができる。						3-d
エ	子どもの興味関心を探り、楽しい保育展開のための教材研究をし部分指導案を作成することができる。						4-c
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	授業内容の概要説明・保育の基本と計画			月 日	シラバスを熟読しておく。		
2	指導計画の種類と役割			月 日	各自の乳幼児期について振り返る。		
3	保育所保育指針・幼稚園教育要領における指導計画			月 日	保育所と幼稚園の相違点を考える。		
4	保育における計画の考え方 0・1・2歳児（発表）			月 日	日常生活の中で乳児の様子を観察し記録しておく。（0.5時間）		
5	保育における計画の考え方 3・4・5歳児（発表）			月 日	日常生活の中で幼児の様子を観察し記録しておく。（0.5時間）		
6	保育所・幼稚園・こども園と小学校との連携			月 日	新聞や報道等から情報を得ておく。		
7	保育の計画の変遷			月 日	教科書を熟読しておく。（0.5時間）		
8	日案から週案の作成（幼稚園）		（獲得を目指す力の確認）	月 日	年齢に応じた事例を探しておく。（0.5時間）		
9	日案から週案の作成（保育所）			月 日	教科書の事例を熟読しておく。（0.5時間）		
10	教育課程・保育課程の見直し			月 日	解説書を再読しておく。（0.5時間）		
11	保育所・幼稚園・こども園の生活と乳幼児理解			月 日	学生間で保育について話し合う。		
12	部分指導案の作成			月 日	絵本や楽譜、制作材料などの保育教材を選んでおく。（0.5時間）		
13	指導計画の実際 0・1・2歳児			月 日	乳児の発達を見直す機会を見つけておく。		
14	指導計画の実際 3・4・5歳児			月 日	幼児の興味関心を探る。		
15	部分指導案の作成と振り返り（発表）			月 日	絵本や手遊びなどの習得に努める。		
16	試験			月 日	自己の成果を振り返る。		
【教科書・テキスト】 最新保育講座5「保育課程・教育課程総論」柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編（ミネルヴァ書房）				【成績評価の方法】 授業への関心・態度・意欲20% 提出物・部分指導案30%・試験50%			
【参考書・教材】 幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書							
【履修要件及び履修上の注意事項】							
【履修上の遵守事項】 15分以上の遅刻は欠席扱いとする。また、遅刻3回で欠席1回とする。							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先： オフィスアワー：							

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア	保育課程・教育課程の編成や指導計画の基本理解		保育所・幼稚園の保育の違いと共通点について述べるができる。	保育課程・教育課程を編成する要件と手順を述べるができる。	各園の教育目標や建学の精神、指導計画を見て、その園の保育方法を予想することができる。
イ①	乳児期・幼児期の発達の特徴を捉えた子どもの育ちと内面理解		保育所保育指針における発達過程の「8つの区分」を述べるができる。	乳幼児の発達について、3歳未満児と3・4・5歳児の幼児の特徴を述べるができる。	子どもの活動の内面を捉え、発達に応じた環境構成や援助を考え、文章化することができる。
イ②	保育者の役割や環境の構成及び再構成の意味、援助の在り方		子どもは「遊びや環境を通して学ぶ。」ことの意味を述べるができる。	教科書の事例にある部分指導案の環境の構成を、発達に応じて再構成して考えることができる。	保育者の役割について、自分がもっとも重視することを乳児と幼児の場合に分けて述べるができる。
ウ①	ねらい設定のための長期の指導計画と短期の指導計画の関係		長期の指導計画と短期の指導計画の種類を述べるができる。	長期の指導計画と短期の指導計画の役割を述べるができる。	長期の指導計画と短期の指導計画の関係がわかり、日案・部分指導案のねらいを設定することができる。
ウ②	日案・週案と長期の指導計画との関係		日々の記録から子どもの姿を捉える「振り返り」の大切さがわかる。	記録から日案・週案を立案する手順を遊びの例をあげて説明することができる。	園の実態や季節・行事を捉え、長期の指導計画を参照したり修正することの必要性を説明することができる。
エ	遊びの導入・展開・まとめの流れを考慮した部分指導案の作成		部分指導案における子どもの活動の導入方法としての手遊びを5種類身に付けている。	年齢に応じた「30分程度の時間を要する遊び」を考え、子どもの姿を予想しながら指導案を書くことができる。	子どもの発達と興味関心を関連して捉え、保育展開を考え部分指導案を作成することができる。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					